

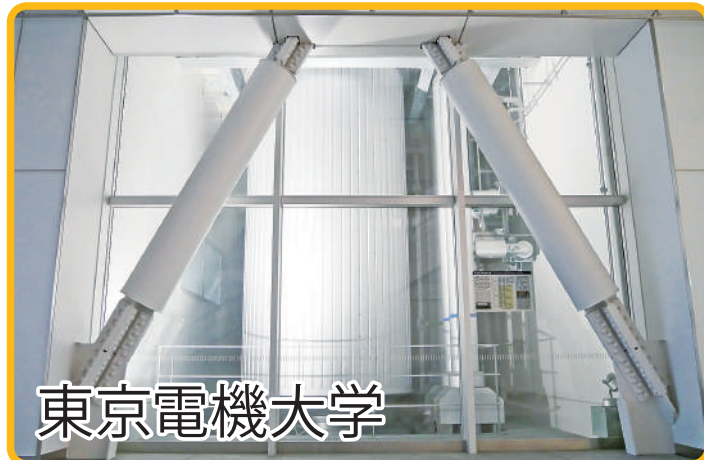
地域社会との絆を深める スタディカフェテリア



四国大学

四国大学が運営する地域と連携した多目的施設「四国大学交流プラザ」に、新たな交流拠点として「Study Cafeteria TAG-RI-BA（タグリバ）」がこの3月に誕生する。TAG-RI-BAには、カフェテリアやスタディスペースが設けられ、同大学の学生が年齢や国境を超えて「人」と「人」の交流を深め、知と体験を共有するコミュニケーションスペースになっている。落ち着いた雰囲気のカフェテリアでは、学生自身が企画し創業プロセスや経営を学ぶチャレンジショップも開催する。

東京電機大学



東京電機大学の「東京千住キャンパス」（2012年4月に開設）は、世界的な建築家 横文彦氏により設計、門や塀のない地域に開放されたキャンパス。建設時より省CO₂エコキャンパス推進に取組み、先端省エネ技術を採用。世界初の連結式縦型蓄熱槽は、未来科学部建築学科の研究室が開発した先端技術を実用化したもの。深夜電力の有効利用による昼間電力を半減するピークカットを実現した。壁に窓を設置して「見える化」し、学生の教材としても活用している。

最先端の省エネ技術採用
次世代型キャンパス

多様な学修スタイルに対応 教育会館



広島国際大学

広島国際大学は、2019年度に複合型教育施設「教育会館（3号館）」を呉キャンパスに新設した。グループ学修、個別学修、国家試験対策等、シーンに応じた多様な空間で、学生の学修意欲をサポートする。また、地域にも開かれたカフェ（レストラン）や呉ローズガーデン等を整備し、大学と地域住民が「交流や連携」を通して、ともに学ぶことができる環境「ユニバーサルキャンパス」の実現を進めている。

学内に古墳



神戸薬科大学

神戸薬科大学のキャンパス内に「生駒古墳」がある。1934年（昭和9年）1月5日、校舎移転整備中に発見されたもので、石室全長9.9メートルの横穴式古墳。六甲山麓では多くの古墳群が発見されているものの、大正以降の宅地造成などによって破壊されたものが多く、原型をまったく崩さず保存された点において大変珍しく、特に貴重な資料として史跡指定地にもなっている。

国登録有形文化財の 校舎



大阪商業大学

昭和3年に創立された大阪城東商業学校（現大阪商業大学）は、昭和9年の室戸台風により木造校舎が倒壊した。その後、翌年に建てられた鉄骨鉄筋コンクリート造4階建の本館が、現在の谷岡記念館。当時の時代を反映して、軍艦をモデルに造られた。外観は平坦な壁面、アーチ型の窓枠等にモダニズム建築の特徴がよく表れており、平成12年に国登録有形文化財に指定された。現在は商業史博物館・アミューズメント研究所展示室など一般に開放された施設があり、地域貢献に活用されている。

47の音色を持つ
美しいオルガン

相愛大学



相愛大学の講堂に設置されているオルガンは、1987年ドイツのカル・シュッケ社によって建造されたもの。3段の手鍵盤とペダル、47の音色を持つ美しいオルガン。音色は手鍵盤の両側にあるストップ（ドアノブのようなボタン）を操作して選ぶ。ケース内部は4階建になっており、大きさも形もさまざまなパイプが3000本以上ぎっしりと並んでいる。パイプは金属（銅と鉛の合金）と木材（松など）で作られ、形状や材質、発音の仕方によって音色はさまざま。

大学と地域を 結ぶ拠点に



共愛学園前橋国際大学

共愛学園前橋国際大学では学園創立130周年記念事業の一環として、2021年2月にKYOA GLOCAL GATEWAY（5号館）が建築された。5号館は学生や地域の人が集うコミュニティホールをはじめ、テラスやプロジェクトルームなどの「学びの場」・「楽しいの場」と大学の「事務局機能」が一体化している。またオープンスペースが多く、フレキシブルな利用が可能となっており、写真の正面玄関は、学生や地域の方々をキャンパス全体へと誘い（いざな）う仕掛けとなっている。※設計士：CaT（シーラカンズアンドアソシエイツ）

歴史的な 赤レンガの カトリック教会



聖マリア学院大学

聖マリア学院大学は、当初の設立母体であり看護実習施設である聖マリア病院との一体的キャンパスとなっており、敷地内にある煉瓦造りの教会「雪の聖母聖堂」は、大学の節目行事が行われるランドマークであり、訪れる者を温かく迎え入れてくれる。元は福岡市内に明治29年に献堂された教会で取壊予定であったが、初代理事長・井手一郎が移築を決意。昭和61年、現在の地に復元された。この時、多くの人々から寄付が寄せられ、外壁の煉瓦一つひとつの裏側に寄付者芳名として残されている。

地形を生かした磯崎新氏の設計

東京造形大学は、開学15年が過ぎた1981年、当時のキャンパス敷地（八王子市元八王子町）が国指定の史跡の一部であることが判明したことから、現キャンパス（同市宇津貫町）への移転計画が始まった。新キャンパスの設計競技が開かれ、唯一八王子の尾根と谷を生かした案を提案した、磯崎新氏のデザイン案が採用された。同大学は不思議と、キャンパス全体を見渡せるような、開けた場所がない。谷と尾根を生かし、緑が生い茂る中、ゆったりと各棟が佇んでいるからだ。鳥のさえずりや瑞々しい風に包まれ、自然と一体化するキャンパスは、美大生にとって唯一無二のアトリエである。

建物の壁を
彩るモザイク画



名城大学

名城大学薬学部のある八事キャンパス（名古屋市中白区）では、カラフルな大理石モザイク壁画が体育館外壁を彩っている。岐阜県大垣市出身の洋画家、矢橋六郎氏（1905～88年）が家業の石材業の傍ら各地に残したモザイク壁画の一つ。1976年に制作され、題名は「薬と生命」。「中央に生命の森を配し、その右側に育児、教育、製薬、治療を描き、左手には、健康な民衆の伝動を表現しました」と、矢橋氏が残したモチーフから薬学生へのエールが聞こえてくるようだ。

東京造形大学



自由な発想を生み出す オープンラボ



湘南工科大学

湘南工科大学の「AI R&D センター（AI Research and Development センター）」は自由な発想と価値観を生み出すためのコミュニケーションの拠点で、ゼミスペース、プロジェクトスペース、ミーティングスペースなどのパブリックエリアと、リフレッシュスペースやライブラリなどのプライベートエリアで構成されている。ユニークなのがミーティングスペースに設置された卓球台。アイデアが浮かばない時、意外な着想を得られるかもしれない。同大学では2023年4月に情報学部（仮称）を新設予定。今後もさまざまなニーズに対応するべく、施設・設備の整備を進めている。

学習スペースの充実



朝日大学

朝日大学は、2021年10月、歯学部6年生専用の学習スペース「Asahi Academic Achievement Agora」を開設した。この施設は、学生の自学自修環境の整備及びカリキュラムと一体化した学修支援の提供を行い、歯科医師国家試験合格率及び合格者数の更なる向上を図ることを目的に設置されたものである。約160台の机が設置しており、学生が自学自習の場として積極的に活用している。

キャンパス万華鏡
写真が語る大学の横顔
自慢の校舎・施設

体育会系クラブの活動環境が更に充実

摂南大学



摂南大学の寝屋川キャンパスに2020年3月、夜間練習用照明設備や電光得点盤、防球ネットを完備した東グラウンドが完成した。人工芝フィールドではラグビー・アメリカンフットボール・サッカー部が、400メートルトラックと跳躍競技専用コースでは陸上競技部が日々練習に汗を流している。今年2月にグラウンドに隣接した部室棟も完成。2階に約190人を収容できる観覧席があるほか、トレーニングルームやシャワー室を完備した更衣室等を備えている。グラウンド周囲には地域住民が利用できる広場やランニングコースなどもある。

近畿大学

近畿大学のアカデミックシアターは、人間のあらゆる知的好奇心を揺り動かす「知の劇場」であり、産学連携や起業家育成など実学教育の拠点。独自の図書分類「近大INDEX」によってマンガから研究書まで配架した図書スペースや、24時間利用可能な自習室、カフェなどを備えている。2021年11月には、Apple社認定の教育トレーニングセンター「Apple Authorized Training Center for Education」が、アジアで初めて同施設内にオープンした。

知の劇場

